漫画の芸術性について

前日に「お話を聞かせてください」とTELを受けたので、当然TELの有るものと思って待っていたら山中社長本人が東京から、みえられた。私はビールを呑んで待っていた。彼は一見して、金持ちであり、大変に頭の良い人であった。多くの芸術家の卵が、長井勝一さんの時と同じく、まどわされるであろう。若い漫画家は名誉を求めている。山中潤さんは自己の一定の領域を保ちきるだけの力が有る。まどわされると書いたのは、そういう意味である。山中さんの聞いた三つの質問一、あれは本当に有った話なのか、一、近親相姦について、一、七十年代はどういう時代であったのか。私は少しくらい酒を呑んでも、素直なときは何でもしゃべる。しかし山中さんの質問には余り多く答えられなかった。彼は私の漫画のファンではない。私の漫画の悪さについては先日手紙で述べておいた。では良さについてはどうか。

漫画的技法に芸術性を持ち込んだのは、宮谷一彦氏である。宮谷さんは今は描いておられないと思う。従来の漫画は、絵において、デフォルメをするというのが当たり前であった。ところが、宮谷氏は観えた通りを描くという、写実性を漫画に与えた。私は絵が下手なので、初め写真を撮ってペンに直すという作業をやっていた。それから妻の美代子の雰囲気の良さについて気付き始めた。油絵の作家の中にも二通りある。誰でもモデルに出来る人と、愛人以外描かないという人である。私は後者である。私がひそかに私の漫画について自負する点は、この、美代子に対する愛の従順性である。私は彼女を描きたい為にストーリーを作った。そこが、他の漫画家と違うところである。油絵の作家はモデルを観て、デッサンして仕上げてゆく。それと同じ技法を私は時々使った。美代子が登場しない時も、そうやって仕上げた時が多々ある。

云うまでもなく、漫画は芸術である。それを忘れる人がよくある。デフォルメという特殊な技法を使って画いても、他の芸術、文字や絵画などと同列には成らない。絵が下手な人は写真やデッサンを通じて技法を確立していかなければ成らない。そこに、漫画作家以外の人の存在観が生まれる。漫画は妄想ではない。突然に起こった事、または、心の中で想っていることを、つつみ隠さず表現して漫画はストーリー上の芸術と、絵画上の芸術の二面の統一を得る。それ程、難しいのが漫画である。たとえば、つげ義春氏の「李さん一家」を、写実性豊かに表現出来れば、それは一種完全な芸術を得るであろう。残念ながら「李さん一家」にはデフォルメが多少ある。観るものが想像で完成に近づけねばならないという点が惜しまれる。あの技法の先に完全な芸術がある。

では、林静一さんの「グッピーは死なない」はどうか。私が林氏に問いたいのは、「あなたはあのモデルを愛しているか」という点である。漫画には心の上の芸術性がある。技法にとらわれては成らないというのは当然な事であるが、心の表現上、技法も大事である。それは才能と呼ばれる領域である。どんなに才能のとぼしい人にも、心を描く権利がある。たとえば、私が「タッチ」に発表した「浮気女」という作品では、兄妹のSEXがテーマだと山中氏は判断されたのかも知れないが、そうではなく、兄妹のように暮らす男女がモデルであり、手法上、女一人しか登場させないのである。SEXのあと、コタツの上に半裸で、美代子が座ったのを観て、私は「いいな」と思いながら漫画にした。そういう技法なのである。この場合、心とは、いかにモデルを愛しているか、という点にある。

通常人の異性に対する愛し方と、芸術家の愛し方では違いがある。芸術家は画こうとする。また、裸体を愛でる。そこに、異性の神性を観る。肉体と精神は不二であるから、肉体を愛すること、即、精神を愛している。私にも美代子以外一人の女性と浮気の体験がある。その女性のことは道義上、画けなかった。一人の女性をいかに愛し抜けるか。その私の信念は今も続いている。山中氏は美代子に、「奥さんにとって七十年代はどうでしたか」と聞いたのであるが、そういう区切り方は歴史上の意味を持っているのか、という点である。そこに私と美代子の沈黙が有る。地上は天変地変をくり返している。いかに新しい芸術と観えるものも、一定の歴史の中からはみ出してはいない。さて、実際に有ったことを、漫画にしたのかという質問だが「悲しみの世代」は主として想念上の事であるが、私は漫画の中であらゆる体験をくり返している。今は美代子と時にビデオ映画を観ている。

一九九三・三・五

安部慎一

今も彼に代わる作家は出てこないですね。

つげ義春

つげ　あの当時出てきた新人の中では一番才能があると思いましたね。誰よりも作家性があって。もちろん色んな欠点とかはあるんですが、才能では一番だと思いましたね。だから描かなくなってしまったのが、物凄くもったいないですね。

――どういうところに才能を見られましたか。

つげ　彼自身の作家としての資質ですね、資質があるんですよ。だから、どのような描き方してもそれがよく現れて、それも魅力的なものとして現れるんですよね。絵が乱暴だったり丁寧だったり、色々なその時々の彼の日常生活なんかが反映して、おかしなところもあるんだけど、そういうのも含めて、作家性というところでは、天性の何かを持っているところがありますね。

――今後も描かれたらと思いますか。

つげ　それは思いますね。例えば太宰治がいろいろ批判なんかされたけれども、やはりそれなりの作家性を持っていて、評価するところ沢山あるし、無視出来ない作家でしょ。安部慎一にもそれがあるんですよね。ですから、止めてしまっているというのが、凄くもったいなくてね。私生活の方にいろいろ問題があって描かなくなったと思うんですけど、その私生活まで含めても作家という感じがありますよね。

――あれ以上作品の様な生活を続けて行くと自分が駄目になるので逃げたとおっしゃってました。

つげ　それは、まだ若かったからね。実生活と作品との距離がうまく計れてなかったと思うんですよね。それは段々と上手に慣れて行くと、距離をおいてやることも出来るようになるんですけどね。ただそうなると確かに薄味になるところはあるんだけれども。彼の場合は、もう私生活からなにから引っ括めて作品化というところがあるでしょ。それはそれなりの迫力になって、良さになっているんだけど、本人にとっては辛くて続けられないですよね。でも、そういうのもみんな含めて、見えるんですよ、自分らも作家だから、やっぱり魅力なんですね。良い悪いいろんな面はあるんだけれども、総合的に魅力というか、全生命を賭けて打ち込んでいるという感じ、魂を打ち込んでいるという感じがね。

――最高の誉め言葉ですね。

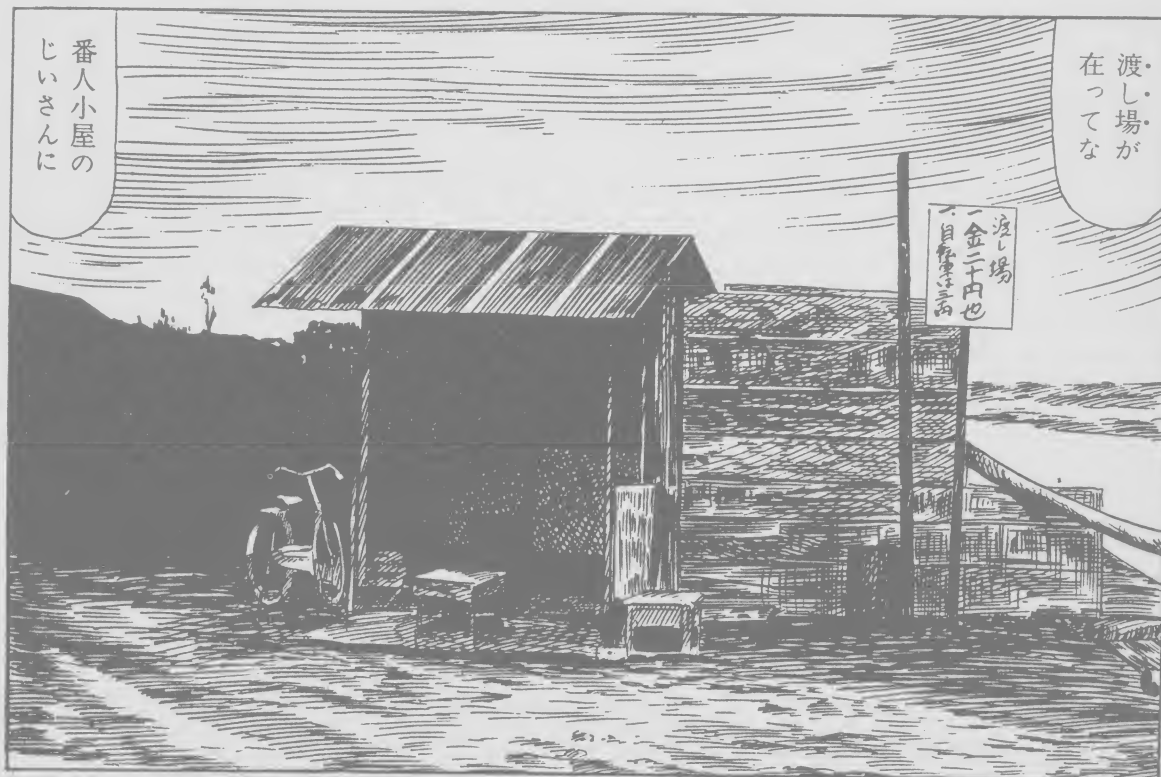
つげ　いや、個々の作品には傑作・駄作あるんですよ。でも、そういう細かな見方じゃなくてね、全体的に見れば、まぁ漫画家の中でも、あの当時出てきたなかでは最高だと思いますね。今、彼に代わるような漫画家ってちょっと出てこないですよね。

――本人とお会いした事はありますか。

つげ　一度しかないんです、個人的には親しくないです。一度会った時も彼だいぶ酔っ払ってたから、親しい話というのはなかったしね。だから彼に僕は特別な何か肩入れするとか、そういう個人的なつながりは抜きにしてね、抜きにしてみても、やはり彼は誉めて誉めすぎる事ないぐらい、良さを持ってましたね。

――安部さんにとっても大変励みになるお話だと思います。ありがとうございました。

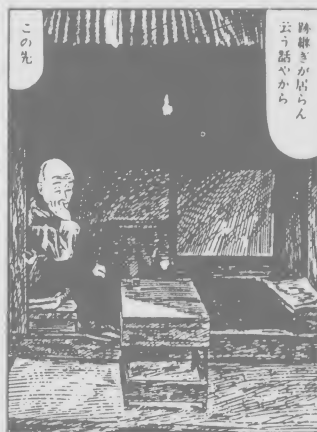
【談・聞き手…山中潤】

◀『無頼の面影』より
▼

安部慎一のこと

鈴木翁二

「美代子阿佐ヶ谷気分」を思い出す時、そこには安部慎一その人や、未知だった数々の漫画青年達との交流に繋がる端緒がまつわっている、といった意味では、却って、たんになつかしい漫画の一つと言うだけでは済まないと思えるような、私にとってはもう少し切実な色調を持った一コマの生活の風景の写真があると気がつく。調布市布田という所で暮し始めた頃、近くに居た北川象一さんという、やはり後には漫画家になって今は廃業した青年がいて（彼は水木しげるさんやつげ義春さんの絵を手伝っていた。つげ作「ねじ式」の中の機関車の見開きのシーンなどが北川さんの仕事だ）、ガロの最新号を見せてくれながら「この描き手はきっとオージのマンガが好きだよ」とその理由を説明してくれたのが「美代子……」だ。確かに安部のデヴュー作にもこの「美代子……」にも、私の拙いデヴュー作や第二作（少年夢遊篇という）と通じ合い呼び合うものを感じた。知り合うようになってから、安部は実によく私の描く物、描く方法について、時には呑み方にまで口を挟んで、感想を述べてくれたが、私語の積み重なり、酔言に過ぎないかも知れないそれらは、しかし、ある偏倚した心情の下では時には適切な批評たりえた、ただ、私が聞いていなかっただけだ、と思うことがある。そして、そういった偏倚こそが、私や、おそらく安部や、今は描くことを止めてしまった幾人もの漫画青年達の共通の問題意識であったはずである。ある心情への偏倚などとは言ったが、それは、ありていな言葉で言いなおせば、現にいま息づいているこの自分に即したマンガを、ということであり、そのためには、こう望んだ時の自分という者を不在へと追いやらないための、固定化し何らかの実体を与えないための、自分に対する、面倒臭いが差し当っては呼び出し続けるしかないその呼び出しの、方法上の問いの設置であって、そのことによって方法（論）を越えた方法（論）であるべきだったはずの、漫画を描くことも生きては行くことだと独白出来るような、常駐する古く新しい問題のことだが。そして、これは自明に危険で、かつ同時に安直で蠱惑的な罠である。そのことによって実にいとしい実在なのである。（しかし私はなんだか自分の方へ引き寄せているのかも知れないが。）

☆　☆

安部には「悲しみの世代」という中断したままの作品があって、この標題こそが彼の全体をよく表していたことを思い出す。登場人物達は伝達不能性の線上を常に往き来し、作者が眺め寒気を覚えているだろう偏平な世界像を伝えていた。眼前の対象を越えてその背後へと視線を移そうとした作者は足元に眼をやってみて、そこには世界が、可能性の全部としての世界像が無いことに驚愕しなければならなかったはずだ。「悲しみ」がどのような代物であれ、それは「世代」などではなく、存在の相を眺めようとする時に組まれねばならない足場の上にこそ宿り胚胎する、息づく感情であるだろう。

「美代子……」をもう一度思い出す時、「主人公」は娘の独白によって登場を告知されるが、しかしまた、独白によってついに登場を拒まれたまま東京の、住宅街の、ブロック塀の迷路をさ迷い消えて行こうとしている、と考える時に、初めに言った切実なものの正体が恐裂ななつかしさとして私に肉薄してくる。

大切な物事について語るには与えられた時間はあまりにも少なすぎた。として、作文以下のこれを安部慎一も読者も大目に見て下さることを望みます。しかし、自分が口に出し書きつけた言葉は己れに立ち帰ってくることを私はまだ信じ期待もする。

'93—3—17

▼『阿佐ヶ谷心中』より

最終回
エリツィン
カスピ海にゴルビーを捨てないで
根本敬
山口幸雄の件はポジが届いて一件落着しました
「あんたは健康そうや、腎臓ひとつくれてやるだけで借金全部返済できる。どうや、悪い話じゃないだろう。一度は死んだ身、あんたも男なら勝負かけてみんか」

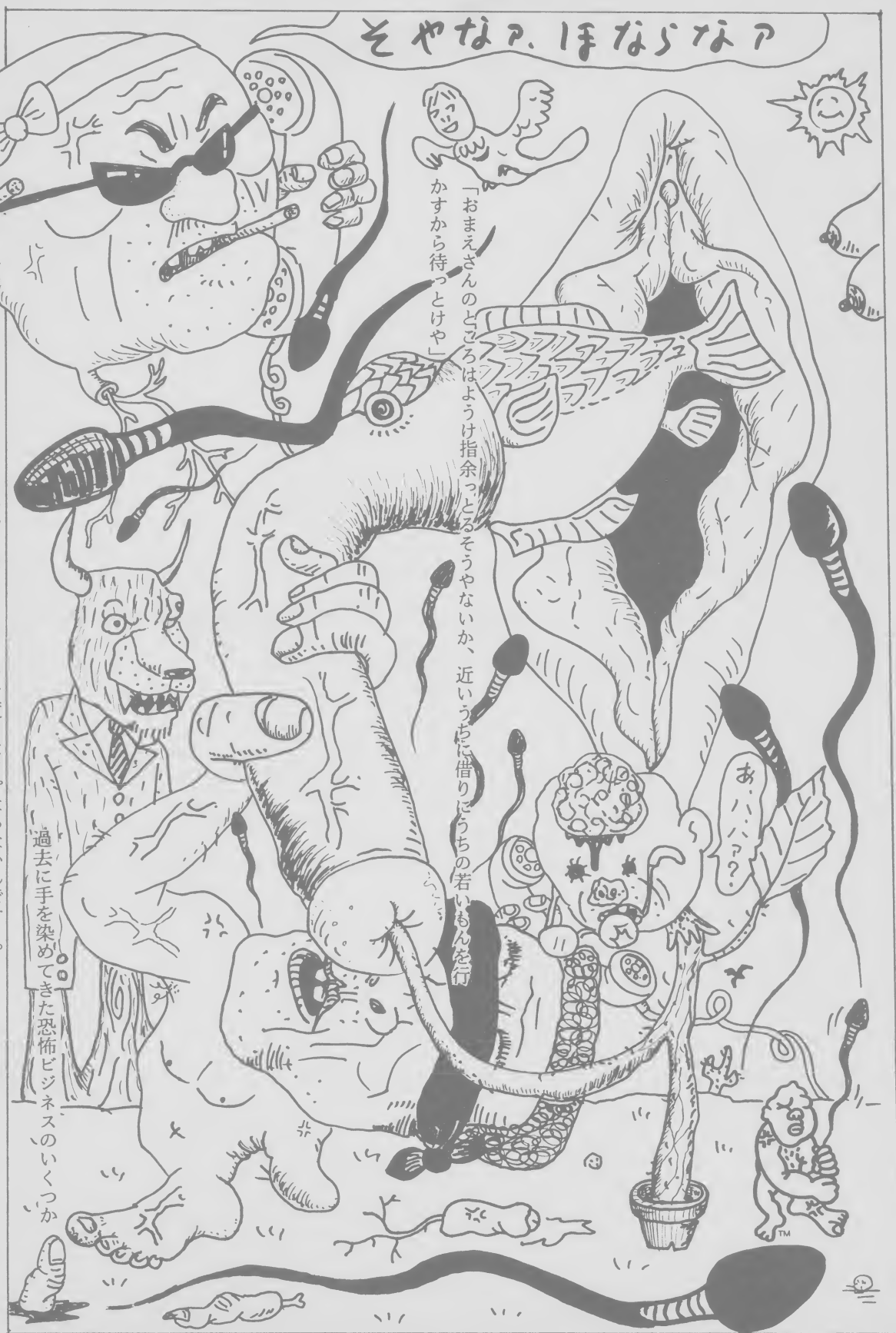
ちぇ、また
逃げられちまった
ホレ兄さん大関
あれ、のんちゃんが小学生に成えゆく
53歳
34歳
17歳
10歳
あの乳でかいアマあいつ、12歳の時誰かにここやられちまった。
一応、身障者だがんな？
あっ電話だっぺ
ジリリリリン

裏金融界のフィクサー、被害者続出の取り立て王、金融完全犯罪に必ず顔を出す男、腎臓売買

ヘヘン
亀のよ、
のろ吉の
命はあづかったズラ
はうぐぅ
ビシ
上海にはフリーメーソン系商人が多く居を構えた。"阿片戦争"の深層に横たわ
ほんでなァ、おめんちから、さっき火が出てよ
えっ
一番腎臓を抜き取りやすいのは借金返済のためにやって来る者たちだ。脱サラして一旗上げようと鉄工所を経営してみたりするが、現実はそう甘くはない。高額の借金だけが残り、青い顔してわしの元へやって来る。
でも安心しろや、スーちゃんがすぐ見つけたァ

の人体切り取り王……ありとあらゆる恐怖ビジネスに手を染めてきた

みよし野の峰に枝垂れるちどりぐさ
吹く山風に揺るるを見れば
こ、このお礼は
な、何なりと
あ…
うぐっ

そやなァ、ほならなァ
「おまえさんのところはようけ指余っとるそうやないか、近いうちに借りにうちの若いもんを行かすから待っとけや」
あ、ハ、ハァ?
過去に手を染めてきた恐怖ビジネスのいくつか
まだぬくもりが手に伝わって来るようなものを渡さなきゃならないんですよ。

空田成
何ィ？ああ、のろ吉と婆ちゃんならよ、今っ成田空洪だっぺ
「たしかに会長は裏金融界のゴルバチョフ、いやエリツィン」
「裏金融界のフセインとでもいいたいんじゃろう」
これから中東行ってでよ、クルド難民の修業つむそスンポウよォ
ANAL

ところで おめえ、フリーメーソン 好きか？
「きちっと利子は取る。充分すぎる利子をな」
え、ハァ、いや、あの
刑務所
精液元

フリーメーソンだって!!じゃねえが!!
お、お父さん
こ、これは……
こ、国際…
何っ国際陰謀!?
どうりで陰モラが渦巻いてるわけだ
ガロ版"エリツィン、カスピ…" The End

コイソモレ先生
しりあがり寿著
それもまたよし。
絶賛発売中!!
B六変形上製　定価九八〇円（本体価格九五一円）
青林堂
とのさまの息子
by しりあがり寿
これこれ おいたがすぎるぞ
バブ
いたたたた たたた
む!!
きさま息子ではないな!!
いかにも
ハナクソ先生
by しりあがり寿
プッ
★ハナクソ先生の授業だ
プッ
プッ
プッ
わからねえ授業だな
大学はいれねえよ
おはなし
しりあがり寿
この前までカエルにあったが
ケロケロ
なんとそうかエル…
くる
…ウラかタヌキだったんじゃよ
スッポコ
ポコポン
ガクガク
わーごめんよバーサン つまらない話じゃった…

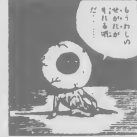
稀書復活

青林堂の水木しげる復刻シリーズ

血液銀行の秋山

十三番病室の死者

人間モグラの男

人間モグラの女

顔のない目玉(鬼太郎の親父)

そば屋

墓場で生まれた墓場の鬼太郎

秋山の友人の漫画家

秋山の母

占いばあさん

月刊「ガロ」創刊30周年記念出版

復刻版 妖奇伝 全2巻

59年、兎月書房の怪奇漫画誌に発表された墓場の鬼太郎の連作5篇は、以後33年以上も描き継がれる鬼太郎伝説の原点といえる。368頁一挙掲載の完璧版。

■上巻/幽霊一家 墓場鬼太郎
　地獄の片道切符
■下巻/下宿屋 あう時はいつも死人
■B6判並製、上下巻セット箱入■各巻約200頁
■カラー頁完全再現■定価3,800円(本体3,689円)

33年もの長きの間、貸本に封印されていた幻の鬼太郎シリーズ第一作"兎月書房版墓場鬼太郎"を初めて単行本化。368頁一挙掲載!!

理学博士有馬汎

大家

吸血鬼ドラキュラ四世

親切な大学教授

腕ききの刑事

吸血鬼夜叉

ドラキュラの下男ねずみ男

売れない漫画家金野なし太

日本血液銀行頭取禿山

吸血木

絶賛発売中!!

●責任編集/かごめしゃ●編集協力/㈱ツァイト●発行/㈱青林堂

STREET AND CLUB SOUNDS MAGAZINE

remix

STREET AND CLUB SOUNDS MAGAZINE
MAR '93 #22
remix
カロ4月号別冊
The Brand New Heavies
JAZZY GROOVE!
Jamiroquai
Sandals
Cool Spoon
Gil Scott-Heron
Prestige All Stars
Yutsuko Chusonji
FREE ROCK!
Thurston Moore
Boredoms
TRANCE HOUSE!
Orbital
Sunscreem
D.F.C
FUNKY
TOKYO CLUBLAND!

定価890円
(本体864円)

編集・発行：株式会社アウトバーン　〒111東京都台東区浅草橋5-1-31　TEL. 03（3863）4350　Fax. 03（3863）4370
営業・発売：株式会社青林堂　〒101東京都千代田区神田神保町1-62　TEL. 03（3291）9556　Fax. 03（3292）7368